

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2009.04.24
【09年第4号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

INDEX

1. 宿泊所・給食センター・ヘルパーステーション合同お花見会
2. 職員研修報告「住宅セーフティネットの論点」
3. 相談室ふらっと～ケアする人のケア～ オープンの報告
4. 研修報告「要援助刑余者の地域生活定着支援の実際」
5. 「自殺」予防についての意見交換会
6. Gallery Cafe三富製作所 『変容ーメタモルフォーゼ』展のご案内
7. 今月のボランティア

1. 宿泊所・給食センター・ヘルパーステーション合同お花見会

今年のサクラの開花は例年より早いとの予報で、今回の宿泊所・給食センター・ヘルパーステーション合同のお花見会は、3月30日に山谷堀公園にて開催することとなりました。しかし、予報が多少はずれ、開花は例年並みとなって満開とはなりませんでしたが、当日は暖かくなり、サクラもちらほらとほころび始めていました。

宿泊所の利用者、職員、ヘルパー、ボランティアの方約80名近い方々が参加され、給食センターからの幕の内弁当に舌鼓を打ち、カラオケ大会では、カラオケ教室の美咲加代子先生を交え、日頃の成果と美声？を披露していました。

また、近くの会社の方が飛び入り参加したりと大変盛り上がり、サクラのように皆さんの顔もほころんでいました。このような行事を通して利用者さんの生活改善のきっかけになり、また他の利用者さんや職員との交流を深めてゆく場となればと思います。

(松川恵子)



どの顔もどの顔も、桜の花に負けないうくらいほころびました！



2. 職員研修報告「住宅セーフティネットの論点」神戸大学平山洋介教授

3月14日ふるさとの会全体研修では、「CDC」(一口MEMOその1)について神戸大学の平山洋介教授に「住宅セーフティネットの論点」をテーマにご講演いただきました。

講演に先立ち、ふるさとの会企画室秋山室長より、ふるさとの会「CDC」としての事業展開エリアや主たる支援対象とする稼働層、社会的退院患者に住宅を供給するための手法や新たな物件確保のための戦略の紹介、またそれらの活動からいかにして地域再生を実現していくのかという見解をご報告させていただきました。

平山先生のお話ではまず、住宅困窮についての問題は、昨今騒がれている景気の後退によるものではなく、景気の後退によって住宅困窮者が生まれてしまうような社会を形成している国の政策・制度にあると指摘されていました。

そして福祉レジーム論(一口MEMOその2)をもとに、日本の住宅政策を他の国と比較しながら、日本の住宅保障の特徴や問題点を表面的に見えていることだけでなく、背景にある大きな枠組みからご教授いただきました。

最後にふるさとの会のような非営利セクターと住宅保障との今後の関係・役割について、日本的な、福祉には強いが住宅や町づくりには弱いという特徴のなかで、住宅単体ではなく、地域のなかで地域にあったものをつくりだしていく重要性についてお話いただきました。

その後の質疑応答では、NPOによるCDCが形になり始めているなかで、資金的に余裕のないNPOが展開していくためにどのように行政が関わられるのか?という問いに、住宅を供給する際に必要とされる、賃貸物件の内装工事費などの多額な導入費用を国が福祉により援助を出せる仕組み作りができればというご提案もいただきました。

講演や質疑応答を通し、改めて私たちふるさとの会のようなNPOが、地域の抱えている問題を解決するために力になれる場面や、今後の可能性の広がりを強く感じることができました。

(島田英次)

一口MEMO

その1 Community Development Corporationの略で、都市内の衰退しつつある低所得世帯や生活困窮者集住地域を再活性化することを目的として住宅供給・雇用開発など様々な活動を行うNPO組織。

その2 エスピアン=アンデルセンが社会保障政策の特徴やグローバル化への対応の多様性を政治的主導や経済的体制との関連で論じたもの。



3. 相談室ふらっと～ケアする人のケア～ オープンの報告

ふるさとの会では、この度「相談室ふらっと～ケアする人のケア～」を開設いたしました。当法人の顧問である佐藤幹夫氏(フリージャーナリスト「自閉症裁判 レッサーパンダ帽男の『罪と罰』」他、著作多数)にスーパーバイザーを依頼。特定非営利活動法人すまい・まちづくり支援機構からは保健師が参加しています。

多様な事情を抱えた利用者さんを支援するに当たっては、課題を職員が抱え込み、心身のストレスにさらされてしまうということが少なくありません。相談室では、利用者のみならず、ケアをする職員の抱える困難にもケアをすることを目的にしています。利用者がいかなる課題や自立阻害要因を抱えているか、ケアをする職員が課題を抱えている利用者さんに向き合うなかでいかに課題の解決を図っているかを、ケース事例を通じて検討し、ケアをする職員を支援していきます。

第1回のケース事例検討では、更生保護の生活再建相談センター経由でふるさとの会の宿泊所で生活している利用者さんの支援における課題について話し合いました。次回の相談室では、利用者さんの自死について取り上げる予定です。

(古木大介)

4. 研修報告「要援助刑余者の地域生活定着支援の実際」

3月11日～13日にかけて、海外職業訓練協会研修室等で(社福)南高愛隣会主催「罪を犯した障害者を地域で支える職員の研修プログラムの開発に関する研究事業」中央研修に参加いたしました。

研修では、司法サイドより矯正・更生保護の各制度説明から、福祉サイドより障害者就労支援制度や知的障害者の支援現場の話を聞くと同時に、個別事例の演習を行いました。

演習では、全国から参加されている各支援現場の方たち97名がいくつかのグループに分かれ、実際に矯正施設からどのような形で、福祉サービスへつなげ、地域生活定着への環境整備をつくるまでのプロセスを検討・発表しました。ふるさとの会では、昨年4月より更生保護相談事業として「生活再建相談センター」を立上げ、約30名近くの方へ支援や情報提供を行ってきた経験もあり、いくつかの事例においても過去支援した蓄積の応用で対応することができました。ただ、障害者自立支援法上の制度については、まだまだ知らないことも多く、本研修に参加することで、さらに支援ノウハウを充実することができました。

研修講義では、司法・福祉制度の隙間で生活困窮状態に陥ってしまっている人の支援活動として、ふるさとの会水田前理事長が取組実績とセーフティネットである生活保護制度を使った地域生活支援について講義を行いました。

本研修及び今年度7月事業開始予定である、「地域生活定着支援センター」(全国47都道府県設置)は、高齢・障害を抱える矯正施設退所者が、就職や福祉サービスを受給できず生活困窮状態となり、再犯を繰り返してしまっている現状を防ぐ目的で設置された画期的な事業です。

ふるさとの会も更生保護相談事業を開始した目的は、再犯防止と路上生活になる前の支援として「生活再建相談センター」を立ち上げたこともあり、この「地域生活定着支援センター」へ積極的に連携を行っていこうと考えております。

(秋山雅彦)



5. 「自殺」予防についての意見交換会

現在の日本の年間自殺者数は3万人を超えていると言われております。経済状況の悪化により、今後も自殺者数はますます増加すると予測され、自殺予防対策が必要とされています。そんな状況において、国立精神・神経センター精神保健研究所精神保健計画部長・自殺予防総合対策センター長の竹島正氏から、地域で生活支援をしていくなかでふるさとの会はいかなる困難さに直面しているのかを詳しくヒアリングしたい、という要望があり、3月25日(水)に、ふるさとの会事務局研修室にて、『地域の中に安定した居場所のない人たちの支援と自殺予防についての情報交換』と題した意見交換会が開かれ、竹島氏、内閣府政策統括官付自殺対策担当自殺対策推進室参事官の加藤久喜氏、国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター室長の川野健治氏、同センター同研究所精神保健計画部流動研究員の木谷雅彦氏、同センター同研究所同計画部リサーチ・レジデントの赤澤正人氏、ふるさとの会前代表理事の水田恵、同会理事の瀧脇憲が参加しました。

まず、瀧脇のほうから当会の事業説明を行った後、水田が、自殺予防という観点からの当会の支援内容について、個別事例を挙げながら解説。①当会が運営する宿泊所や支援付住宅が社会的入院患者や触法要保護者の受け皿となり、医療や介護等の社会サービスと連携しながら生活支援をしていくことで、地域のなかでの安定・安心した生活づくりを実現すること、②自立支援を行うとしても、短期型の就労自立を早急に目指すのではなく、メンタルケアをしながら長い時間をかけて就労阻害要因をひとつひとつ取り除いてゆくことで多様な自立を目指すこと、以上の2点を主な論点として語りました。

その後の意見交換会では、①に関する議論のなかで、加藤氏から、当会が取り組んでいるCDC事業を「それ自身が自殺予防対策になっている」と評価していただいたうえで、現在の山谷地区にあるような社会サービスの連携のネットワークを他の地域でも創りあげていくことの必要性を訴えました。また、②に関する話題のなかでは、川野氏が、自殺未遂者の病院退院後のアフターケアが欠如している現状について触れ、メンタルケアを重視した生活支援の重要性を主張しました。いずれの意見に対しても、今後それを実際にどう実現していくのか、という問題意識をみなで共有し、今後取り組むべき課題を再確認することができました。

過去に利用者の自殺に直面した経験がある私も、この意見交換会に参加させて頂くことができたので、この稀有な機会を捉えて、いまでもその体験につきまとう複雑な感情に見舞われることが多く、精神的に辛いところがある旨の意見を述べさせて頂いたところ、川野氏から、「自殺に直面した支援者は、支援者という側面と遺族という側面の二重性がある。支援者側としては後悔が残るが、遺族側としては、その方の思い出を懐かしく感じることができる。遺族側としての記憶を仲間と共有し、次の経験に生かしてほしい」という貴重なアドバイスを頂きました。今後も支援を続けていくうえで、大いに励まされたように感じております。

(千葉 翼)



6. Gallery Cafe三富製作所 『変容ーメタモルフォーゼ』展のご案内

期 間 2009年5月30日(土)～7月12日(日)金土日のみ
 金 pm3～7:30 土・日 am11～pm5
 入場料 800円(オリジナルタンブラー、ドリンク付き)
 会 場 Gallery Cafe 三富製作所
 主 催 社会福祉法人 さざんかの会
 協 力 特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会
 ／ 社団法人精神発達障害指導教育協会



高のしなうどんとドリンクあります！
おもしろいやってのり！
アウトサイダーアートグッズ販売です！

変容

—メタモルフォーゼ—
(社) 発着協会 / (社福) さざんかの会 芸術作品展

ギャラリートーク
5/30(土) pm2-3
会場 ぼたよしこ 氏

ワークショップ「みんなで絵をかこう」
5/31(日)、6/12(日) am10-12
7/11(土) am10-12 会場 さざんかの会
ナビゲーター つかへり/口 氏

いざよいアートの展示場に入ります
会場 さざんかの会
TEL 03-3801-0377 FAX 03-3801-0881
E-mail sagasaku@hattatsu.or.jp

2009年5月30日(土)～7月12日(日)
金曜日 pm3～7:30土、日曜日 am11～pm5
入場料 800円(小学生以下、高齢者、障害者半額)

主催 発着協会 共催 さざんかの会
協力 精神発達障害者支援協会 自立支援センターふるさとの会
お問い合わせ 発着協会 TEL 03-3801-0377 FAX 03-3801-0881
E-mail sagasaku@hattatsu.or.jp

Gallery Cafe 五重奏作所
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6
TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950
E-mail:hurusato@d5.dion.ne.jp
HTML:http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/

初日には、
ボーダレス・アートミュージアムNO-MAディレクターはた
よしこ氏
によるギャラリートーク、
その他 会期中には、ワークショップ、フードサービスな
ど、
事前申し込みが必要なプログラムもあります。

事前申し込み、お問い合わせ
(社福)さざんかの会
tel 03-5963-6090
e-mail pegasus2@hattatsu.or.jp

7. 今月のボランティア

【ボランティア・カンパ大募集】

●5月17日(日)に、敬老室にて炊き出しを予定しています。炊き出しの作業の合間のコミュニケーションは、とても有意義な情報交換の場となっています。ボランティアの方の参加をお待ちしています。

●ボランティアサークルふるさとの会では、今年も台東区内で活動するボランティア団体の一つとして、第19回ボランティアフェスティバルに参加します。災害救援ボランティアのデモンストレーションとして、アルファ米の炊き出し訓練をする予定です。集合は午前10時現地です。下記にご連絡の上、奮ってご参加ください。

▽日時:4月29日(祝) 午前10時～午後3時

▽場所:千束小学校・千束公園

▽内容:福祉・環境・健康づくりなどのさまざまな分野の活動紹介、舞台発表、相談コーナー等

<連絡先>

ボランティアサークルふるさとの会 (担当:町田/馬場)

TEL 03-3801-0377 FAX 03-3801-0881

E-mail:boranteahurusato@gmail.com

ふるさとの会HP:<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

発行元:特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6

TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950

E-mail:hurusato@d5.dion.ne.jp

HTML:<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>